
秀田気

高倉美優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

霧囲気

【コード】

N9823C

【作者名】

高倉美優

【あらすじ】

ゆっくり時が流れる、放課後の図書室で。

窓越しに、グラウンドを見れば、汗だくで筋トレをしているサッカー部員が目に入る。

どうしてそんなに頑張れるんだろう。

春とはいえ、太陽の下で走るなんて…

「私には一生無理ね。こういう静かな空間が一番落ち着くわ」

手に持っていた本をパラリと捲りながら私が言うと、隣に座っている佐野くんが、ふっと、笑うのがわかった。

「私、変なこと言った？」

「いや、北原さんらしいな。って」

「らしい？」

「うん」

静かな沈黙が、また始まる。私は、読書が好きという訳では無いが、この図書室によく来る。涼んでいるというか、怠けにきているというか…。

1番の理由は、静かで、穏やかで、優しい空気が流れているこの図書室の雰囲気が好きだから。

勉強している人。読書をしている人。20人くらい生徒がいるはずなのに、そう思わせないほどの沈黙。

読書や勉強が目的だから、顔を合わせることも多くても会話は少ない。

いつも真面目な顔で本を読んでいる佐野くんは…

同じ学年で、背は私より少し高いくらい。黒くて少し長めの髪にメガネをかけた姿は、少しかっこいいと思う。

よく見ると、まつげは長めだし肌もキレイ。

さっき、彼は私の発言に

「らしい」と言ったけれど、私は彼の内面的なことは何も知らない。

「何？」

私の視線に気付いた佐野くと目が合う。

「佐野くんって、どんな人なんだろうなって思ったの」

優しくて綺麗な目は、真っ直ぐに私を見ている。

「気になるなら、いくらでも教えるよ。俺も北原さんのこと知りたい」

あ…

彼ってこんなに優しい笑い方するんだ。

鼓動が早くなる…。

聞きたいこと、話たいことは、たくさん。

「とりあえず、ここを出ようか」

立ち上がって、手をさしのべてきた彼の手に触れると

暖かくて。

心地よくて。

優しい感じがした。

私の好きな雰囲気。

(後書き)

人を好きになる・仲良くなるきっかけは、現実では些細な事だよな
あ。と、思いながら書いた小説です(・・・)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9823c/>

雰囲気

2010年10月10日18時59分発行